

豊剣会だより

(表題字・中9 榎原 武雄氏)

第十回豊剣杯争奪大会及び
懇親会は、平成16年3月
28日(日)に実施します
(詳細は裏をご覧ください)

平成16(2004)年
3月1日 発行

大芝利文会長よりご挨拶

高13期 大芝 利文

2004年、今年は4年に1度のオリンピックの年です。暗いニュースが多い中、沢山のアスリートの活躍が世の中に明かりを灯してくれることを大いに期待したいものです。

昨年7月に行われた豊高剣道部の夏の合宿に、初めて参加しました(仕事の関係で1日だけでしたが)。場所は奥神鍋。私の住んでいる三木市から車で3時間ぐらいでした。ここは冬はスキー、夏は色々なスポーツの合宿で利用されています。当日も大勢の若者達の元気な声が聞こえていました。私は半年ほど肩を痛めていたので、防具をつけることはできませんでしたが、午後の部の稽古で部員の指導を行いました。合宿の全日程に参加・指導されている豊田俊一先輩(中学21期)から、「初心者を中心に指導してほしい」とのことで、私が任に当たったのは女子が半数以上のメンバーでした。部員達はみんな真剣に、基本打ち・合い掛かり・形の稽古をこなしてくれました。その中で、私は部員が退屈ないように、昔、井坂先生が豊高で指導された1人対3人の練習方法を取り入れてみました。部員達はみんな虚をつかれたようですが、楽しく打ち込んでいる様子でした。

合宿の実施に際しては、付き添いの山崎先生や参加・指導された豊田先輩をはじめとする諸先輩が、大変ご苦労されております。しかし、若者達の喜々とした姿を目の当たりにして、やはりこういう企画は大切なことだと痛切に感じました。それだけに山崎先生や参加・指導された先輩方には、本当に感謝申し上げます。また、豊剣会は、合宿の充実を目的に協力金をお出しておりますが、これは豊剣会の皆様からの会費・協力金に負っております。改めて豊剣会の皆様にお礼申し上げます。私も、今後とも時間の許す限り合宿に参加し、側面からのご協力をさせていただきたいと考えております。

今年も、豊剣会の大会及び総会・懇親会が開かれます。毎年3月の最終日曜日が良いとのことで、今回は3月28日(日)の実施となります。

現役とOBとが共に豊剣杯の争奪を目指す、豊剣杯争奪大会も今回で第10回目を迎えます。懐かしい道場で汗を流すのもよし、見学だけでもよし、多くのOBのご参加をお待ちしております。そして、その後には開かれる総会・懇親会で楽しい語らいをしていただければと思います。

これら一連の企画・運営は、合宿での指導だけではなく日頃からの指導を昔からやっていただいている豊田俊一先輩、豊剣会会計をしていただいている松村栄太郎氏(高校18期)、豊剣会メンバーで豊高剣道部の顧問でもあった高田裕文氏(高校20期)をはじめ、多くのOBの方々のご努力のおかげです。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

終わりに、豊剣会会員諸氏の益々のご健勝・ご活躍、並びに豊高剣道部及び豊剣会の発展をお祈りし、ご挨拶とさせていただきます。

剣道部顧問13年

豊中高校剣道部顧問 山崎 一

早いもので、豊中高校にお世話になって、この3月で13年の月日が流れた。

13年前、同期で着任した8名の中に人なつっこい笑顔で話しかけてくる人がいた。「剣道部の顧問になってくれませんかねえ。」社会科の高田裕文先生(高校20期)である。聞くところによると、彼は豊剣会で、剣道部の顧問をすることになっているらしい。そんなことを言われても、私は剣道の経験など全くなく、ルールすら分からない(ちなみに、試合の時どういうきっかけで旗が上がるのかがいまだに分からない)。

ただ剣道との関わりといえば、3人の子どものすべてが、小学校の体育館で行われていた剣道教室に通っていたくらいのもので、1人は中学で、1人は高校でリタイアした。1人だけは結構剣道が気に入ったらしく、職に就いた現在でも松下電器の道場へ通っている。3段ということだ。

「指導は豊剣会の先輩と協力して自分がやる。」「合宿について来てくればいい。」などと言われ、結局引き受けることにした。

事件は9年後に起こった。高田先生が教頭として栄転されることになったのだ。いきがかり上、最古参の私が剣道部のチーフ顧問を引き受けざるを得なくなった(ついでに学年主任の大役も私にまわってきた)。それからは、合宿の企画・運営、他の顧問との調整など、すべての仕事をこなさなければならなくなった。

1月2日の初稽古の付添や、3月末の豊剣杯争奪大会の付添、それに部員を公式戦へ引率して行くこともさほど大変だとは思わない。それよりも辛いのは、熱心な顧問のいる学校へ、部員を練習試合に連れていくことだ。練習の最後に、正座して相手校の部員に何か言わなくてはならない場面。生まれてこの方、まっとうに正座などしたことのない私であるし、第一言うことが見当たらない。「けがをしないように」などと問の抜けたことしか思いつかない。あれだけは本当に辛い。

現在、同一校7年以上勤務の者は人事異動の対象者になっている。私の場合は、どういわけかうまくすり抜けて、その倍近くの年月を豊高で過ごさせていただいた。いくら何でも…。今度こそ私のような「あきれた顧問」ではなく、実際に指導のできる優秀な顧問の先生に剣道部を見ていただきたいものだと思っている。

豊高剣道部部長及び副部長より 平成15年7月の合宿の報告

部長 中川 賢士(高校57期)

7月28日朝8時30分、バスは合宿場に向けて出発した。合宿場に到着してすぐ昼食を済まし、その日の稽古が始まった。内容は、初日ということもあって、豊田俊一先生(中学21期)の話や、面打ち・小手面打ちなどの基本稽古という簡単なものだった。

2日目は、朝9時から形の稽古をした。初心者はおろか、経験者も形を覚えていないという状況だったので、1本目から丁寧に豊田先生が教えてくださった。そのおかげで、みんな1本目から6本目までは覚えることができた。一方で経験者は、大芝信雄先生(高校16期)に稽古をつけていただいた。やはり強い方と稽古をすると強くなるもので、みんなの剣道が変わって見えた。午後は、1年生の初心者以外は大芝先生にかかり、それと並行して、技の練習もした。たくさんの技をやったので、みんな少し困惑しているようでもあった。

3日目の午前は、初心者が大芝先生にかかっていき、経験者が技を練習した。午後は豊田先生の指導で「立ち切り」をした(注)。元立っている人を見たらすぐ気の毒に思えてきてしまった。夜はミーティングを行った。あまりやる機会がなかったし、部についても考え直すことができてよかった。

4日目(最終日)は部内戦をした。みんなしっかり動いている感じがして、この合宿の成果が現れているように見えた。

OBの方々、できるだけ合宿場に足を運んでください。お願いいたします。

(注)3日目の昼に大芝信雄氏が帰られ、かわって兄上の大芝利文氏(高校13期、現会長)がお見えになった。会長の挨拶にもあるように、豊田氏が部長を含む熟練者の指導を、大芝氏が女子部員を中心とした初心者などの指導を行った。

副部長 増田 裕香(高校57期)

合宿3日目の午後、今や合宿恒例となった「立ち切り」が始まった。普通は男子が元立ちになり女子と1年経験者がかかっていくのに、今年はOBの方がいなかったこともあり、5年ぶりに女子が元立ちだった。5分を10人、計50分連続で地稽古をするなんてやったことがなかったので、とにかく全力を出しきろうと思った。先を見ないで、かかってくる相手を無心に打っていた。8人目で部長の中川君がかかってきた。そのときはすでに体力も限界だったけれど、少しでも隙を見せたりフラつくとかガンガン打ってくるので、声を出して気合いを入れなおして1本1本を決めて行くつもりでがんばった。最後は自分でも驚くほどに相手が見られていた。しっかり打っていたと思う。

10人目が終わったときは、疲れきっていたけれど、「もう終わったのか」という気分だった。その後に豊田先生が来られて、「2年女子はよくがんばった。」と言ってくださったので、すごく嬉しくて達成感を得ることができた。

この立ち切りを通じて、私は、何事にも全力で向かっていくことのすばらしさを学んだ。このことを胸に、日々の稽古もがんばろうと思う。

谷口先生「剣道有功賞」受賞

中学19期の谷口真澄様は、この度、財団法人全日本剣道連盟より、「地域における剣道普及・発展のため永年にわたる功績があり、徳操高潔な人物である」とのことで、「剣道有功賞」を授与されました。大阪府では受賞者がわずか2名であり、その1名という栄誉ある賞です。誠にありがとうございます。

豊剣杯争奪大会・懇親会のご案内 — 第十回記念大会! —

毎年3月下旬の日曜日に実施している、豊剣杯争奪大会及び懇親会も、今回で第十回目を迎えることとなりました。

平成7年に始まったこの大会及び懇親会は、5月の豊陵会総会に合わせ実施していた豊剣会総会を、現役部員とOBとの交流をより活発化するため、試合を組み込んで3月に実施することとしたものです。参加者も年々増加して、今では豊剣会の最大の行事として定着しております。

今後も、豊高剣道部OB〔豊剣会会員〕相互、並びにOBと現役部員の交流の場として、参加者がますます増えることを願っております。現在剣道をしておられない方も、剣道部の同窓会のつもりで、ふるってご参加下さるようお願い申し上げます。

第十回の実施要項を、以下のように決めましたので、同期の方をお誘いのうえ、参加の申し込みをお願いいたします。申し込み無しでの当日参加でもけっこうですが、できるだけご連絡下さい。

なお、今回は第十回記念大会として、参加者(試合されない方も勿論)に記念品を用意しております。

- 1 日時 3月28日(日)
 2 場所 争奪大会;豊高柔剣道場 懇親会;さがみ
 3 会費 一般 3,000円 学生 2,000円
 4 申込先
 下記高田あて、ハガキ・電話又はFAX [下記電話で送れます]
 で。若しくは下記メールアドレス宛Eメールも可。高田不在の場合
 は伝言でお願いします。
 〒563-0105 大阪府豊能郡豊能町新光風台5-21-9
 TEL・FAX 072-738-5433
 メール houkenkai@hotmail.com

- 5 実施スケジュール
 11:30~ 受付開始 [体育館1階入口にて]
 12:00 豊高柔剣道場に集合し(時間厳守) チーム編成
 12:30 開会式
 12:45 試合 開始、その後 練習
 15:00 閉会式 終了
 [[さがみ](学校から歩5分・梅花高校東北向い)へ移動]
 16:00 懇親会 開始(大会の進行次第で多少前後します)
 17:30 懇親会 お開き
 この後は、各グループで懇親の場をお持ち下さい。

(注) 後半の懇親会の都合がございますので、試合に参加される方は、12:00からスムーズにチーム編成ができるよう、早めにお越し下さい。

私の豊高剣道部時代

高33期 太田 哲也

いつの間にやらクラブといえ、剣道よりもキタカミナミが先に思い浮かぶ年になってしまいました。剣道に打ち込んだ日々は遠く、20年以上昔の話、思い起こせば「本当に真剣にやっていたのだろうか」と、なんだか怪しくなります。

1980年頃はPL・清風・初芝・近代附属が4強で、PL学園には全日本選手権者の石田利也先生(現大阪府警)がおられた時代でしたが、高33期の成績は、インターハイ予選ベスト32・国体予選ベスト8で、共に初芝高校に敗れたと記憶しております。当時は途中で私学勢を倒すにはどうしたらいいか、喫茶店でインベーダーゲームをやりながら真剣に(?)語り合ったものです。長時間の稽古・豊富な遠征試合で徹底的に鍛え上げられたチームに対抗するには、とにかく頭を使うしかありません。試合会場で彼らの技を頭に焼き付けて、引き技のタイミングや技のコンビネーションを真似してみても、その技の対策を考えると、地味な努力をしていました。私学勢は確かに強いのですが、技がパターン化していることが多く、それだけでもやっておけば結構通用するものでしたね。

さて、現在剣道部には指導者がいないと聞いており、OBの一人として心を痛めております。しかし、そんな状況の中でも、自分たちで最善の結果を出す努力をすることは、決して無駄ではないと思います。

私なりのアドバイスとしては、高校剣道で一番重要なのはスピードです。最低限の腕力・リスト・踏み込みは必要ですが、「あとは気合いでスピードと力をどれだけ上積みできるか」と考えれば、課題はかなりシンプルになります。もちろん剣道はもっと奥が深いものですが、部活の限られた時間の中で、そう多くを指すことはできません。基礎体力にしても稽古にしても、ポイントを絞ったトレーニングにより、大きな効果が生まれるはず。大阪でベスト8の壁を破るのは至難ではありませんが、是非ともがんばってほしいと思います。

私も豊高卒業後はすっかり剣道から遠ざかっていたのですが、現在は近所の少年剣道クラブで小中学生達と一緒に週2回汗を流しております。私の娘相手に、面に跳んでいとも簡単に胴を抜かれるというのともまたいいもので、高校時代の続きをボチボチ楽しんでやっております。

豊剣会会計報告について

会計 松村栄太郎(高18期)

平成15年度分(平成15年1月から12月まで)の決算は以下のとおりですので、ご報告いたします。

(収入)	
・前年度繰越金	39,659円
・賛助会費	201,190円
・第9回豊剣杯争奪大会会費	83,000円
・雑収入	1円
*合計	323,850円
(支出)	
・剣道部合宿援助金	100,000円
・第9回豊剣杯争奪大会費	79,370円
・通信費	42,400円
・会議費	19,320円
・事務用品費	7,035円
・次年度繰越金	75,725円
*合計	323,850円

協力金等のお願い(事務局より)

日頃は、豊剣会へ色々ご協力を頂き有り難うございます。豊剣会は、(ア)豊高剣道部OB相互の交流及びOBと現役部員の交

流、(イ)現役部員への支援を目的に組織されたもので、その運営は、皆様からの会費・協力金で賄われております。

それらの資金は、(ア)については、毎年3月下旬に実施している「豊剣杯争奪大会と懇親会」への援助、皆様にお送りしている「豊剣会だより」の発行費用、慶弔費等に使われております。また(イ)については、夏期合宿への援助費等として、剣道部員の技術向上のために活用されております。

従って、毎年皆様からお送りいただく会費・協力金が途絶えることは、伝統ある豊高剣道部の、世代を越えた交流を絶やすことにつながると申して過言ではないと考えます。

どうかその点をお汲み取りいただき、同封の振り込み用紙にて、多大のご協力をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

会費・協力金に協力いただいた方

[豊剣会へ会費・協力金を頂戴し、誠に有り難うございます。前回掲載分以後、平成15年6月までにご送金いただいた方々をご紹介します。今回掲載分以降にご送金いただいた方は、次号でご紹介いたします。回(期)別・順不同で敬称略。()内は旧姓。【 】内は短信。万一、掲載漏れ、誤字等がありましたらお許しください。]

中9;榎原武雄。中10;薦田巖男。中14;西村淳一、米谷孝。中16;前川昌三。中17;中島 巖。中18;藤本久雄、森川五郎。中19;谷口真澄、徳田迪夫、練木昌三。中20;久保隆。中21;豊田俊一。中22;内山理、玉城哲一、宮崎(上島)喜昭。中23;芳賀洋、米谷睦。高7;今西春禎。高10;吉村克彦。高11;藤原颯。高13;大芝利文。高16;大芝信雄。高19;松原基夫。高20;村上優。高21;高橋秀夫。高27;西崎(高木)佳子、加藤健。高28;八島一郎。高29;加藤芳哉、後藤(藤本)陽子、吉矢和彦。高30;島村宏二、福森(米地)才知子【主人の駐在に伴い、この夏より5~6年アメリカで生活することになりました。】。高31;秋(森田)敦子【東京都町田市に転居しました。】、藤野(鶴川)隆世。高34;世古信三【本年4月より大分県の方に転勤します。九州の地で剣の道に励みたいと思います。】。高38;友井毅。高48;光久広志。高49;阪本裕貴。高51;中野仁志。高54;太田龍一。

(注) 中14の米谷孝様は平成15年3月にご逝去されました。中22の内山理様は平成14年7月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

第九回豊剣杯争奪大会の戦績と(懇親会を含む)参加者のご紹介

[OBのみで敬称略。万一、掲載漏れがある場合、誤字のある場合はご容赦ください。]

優勝 光久・尾久土・門脇チーム
 2位 並河・福田・太田(高33)チーム
 3位 村井・太田(高54)・岡本チーム

中14;西村淳一。中21;豊田俊一。中22;宮崎義昭。高13;大芝利文。高18;松村栄太郎。高19;松原基夫。高29;並河徹也。高32;福田和弘。高33;太田哲也。高48;光久広志。高49;尾久土寛・門脇真一・為平隆治・福嶋典子・矢野倫太郎。高50;木下佳子・三坂裕子。高51;森山雄太郎。高52;梅島慎吾。高53;竹内嘉彦・松尾尚文。高54;太田龍一・岡本弘司・小城友紀・鈴木亜紀子・平田瑞穂・藤井佑有・升方はるか・村井裕典。高55;澤田明香・芝暢郎・田村友恵・長尾勇輝・平田麻子。

(注) 上記参加者の他、豊高剣道部顧問の先生と、現役生に参加・協力していただきました。また、当日は豊陵会幹事の浅井先生にご挨拶をいただき、豊陵会資料室の見学をさせていただきました。

編集後記

事務局 高田 裕文(高20期)

3月末の大会は、前年卒業の期の部員(ちなみに今回の第十回は55期生が担当で、第九回担当の54期生が指導)により運営されております。また、「豊剣会だより」の封筒詰めから発送までもその期の人たちをお願いすることになりました(たよりの原板作成と印刷は従来通り高田が、宛先等のタックシールづくりは51期森山で行いました)。

ここ暫く、全く面白くない紙面になっておりますが、今後勉強して、豊剣杯争奪大会の写真等を掲載できるようにしていきたいと思っております。遠方の方[お近くの方も]は、豊剣会事務局宛に近況をお知らせ下されば、次号の「豊剣会だより」に掲載させていただきますので、音信の途絶えた同期や先輩・後輩との交流復活のきっかけになると思います。

現在、豊剣会の名簿整備を行っております。転居に際しては、高田又はEメールアドレス宛若しくは協力金振り込みの際、お申し出下さい。また、お知り合いの方の転居情報がありましたら併せてお知らせ下さい。

なお、名簿配布については、前号で「当節プライバシーや名簿悪用の問題があるので、その点を勘案しつつ、今後検討する」旨書いておりましたが、まだ結論は出ておらず、現在も配布は見送っております。